# 主体的にかかわり、ともに学び合う子の育成

~少人数・複式学級における、算数科の授業実践を通して~

(3年計画の3年次)

校長 野田頭 典枝

# 1 研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校の教育目標は「夢に向かって挑戦する元気な子」である。努力目標である「かんしゃする子」「ねばりづよい子」「はきはきはなす子」「まなびつづける子」の育成に向けて教育活動を展開している。

「はきはきはなす子」「まなびつづける子」の具現のためには、主体的にかかわることや思いや考えをつなげて話合うこと、自分の学びを振り返ることを通して、自分に自信をもち主体的に表現する力を高める指導の充実を図ることが必要であると考えた。

(2) これまでの研究経過から

昨年度は、自信をもって学び合う児童を育成するために、算数科において、解決の見通しをもち問題に取り組ませ、話合いや振り返りを学習過程に位置づけた指導の工夫について、授業実践を通し研究を行った。その結果、成果として以下のようなことが挙げられた。

ア 本時の内容に関わる既習事項の掲示、前時の学習内容の想起、教具や図の提示等を行うことは、 問題解決の見通しをもつことができ、児童同士で間接指導を進めていくことに有効だった。

- イ 指導過程内に意図的・計画的に話合いの場を設定し、ペアやグループ、全体との関わり方を工 夫し話合いをさせてきたことにより、自分の考えに自信をもったり友だちとの違いに気づいたり することができるようになってきた。
- ウ 振り返りの工夫や継続により、内容に質の高まりが生まれ、自分の学びや伸びを実感し、次時 への意欲をもてるようになってきた。

これらの成果の一方で、より主体的に関わり、学び合う児童を育成するために、以下のことが課題としてあげられた。

- ア 主体的に問題解決に向かうための、授業の導入から課題設定までの教師のはたらきかけ。
- イ 考えを深めさせるための、児童同士の話合いや教師と児童での話合いの工夫。
- ウ 学習効果を高めるためのICTの活用。

そこで今年度は、過去2年間の研究の成果を取り入れつつ、「主体的に問いをもち問題に取り組み、話合いを通し考えを広げ深められる子」という姿をめざす児童像として掲げ、問いのもたせ方の工夫、自力解決・話合いのさせ方や支援の工夫を意識した授業実践を行うことにより、本主題の実現にせまることができるのではないかと考えた。

# 2 研究のねらい

主体的に問いをもち問題に取り組み、話合いを通し考えを広げ深められる児童を育成するための指導のあり方を、算数科の授業実践を通して明らかにする。

## 3 研究仮説

少人数・複式学級の算数科学習指導において、導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけ の工夫をし、対話を通し協働的に学ぶことによって、学ぶことのよさを実感し、自信をもって学び合 う児童を育成することができる。

#### 4 研究内容

- (1) 導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけの工夫
  - ア 問題提示の工夫
  - イ 発問の吟味
  - ウ 見通し(考え方・方法)のもたせ方の工夫
- (2) 対話を通して学び合うための、話合いの指導や支援の工夫
  - ア 自力解決を大切にした話合いの場の設定
  - イ 明確な視点で比較・検討させるような、目的意識をもった話合いのさせ方の工夫
  - ウ 話合いにおける、教師のはたらきかけ(板書、切り返し、揺さぶり、発問、指示等)の工夫

# 5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材・授業者など
7	6	第1回授業研究 (5・6年) 5年 「合同な四角形のかき方」 6年 「面積の公式を使って」 授業者 教諭 佐藤 かおる
1 0	2 5	第2回授業研究 (3・4年) 3年 「あまりの大きさ」 4年 「面積の求め方の工夫」 授業者 講師 北村 美沙紀
1 1	3 0	第3回授業研究(1年) 1年 「ひきざん(2)」 授業者 教諭 泉山 武志

## (2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
6	3	複式担当者研修会 (種差小学校)
6	2 9	1人1台端末の活用研修 (総合教育センター主任指導主事 石井 一二三 氏)
1 1	1 6	プログラミング教育研修 (総合教育センター主任指導主事 石井 一二三 氏)

# 6 研究の成果

- (1) 本時の内容に関わる既習事項の掲示、前時の学習内容の想起、簡易な問題の提示等、教師のはたらきかけを工夫することにより、見通しをもち、主体的に問題解決に取り組むことができた。
- (2) 話合いの進め方や観点を掲示したり、自力解決をもとにしたペアやグループでの話合いの場を設定したりするなど、話合いのさせ方を工夫することにより、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができた。
- (3) ジャムボードを使って自分の考えを表したり、他の考えと比べたりするなど、1人1台端末を効果的に活用することにより、話合いへの意欲をもてるようになった。

# 7 研究の課題

- (1) 間接指導で主体的に問題解決に向かうための、見通しをもたせる手立ての工夫。
- (2) 多様な考えにふれ、自分の考えをつなげたり広げたりするための、児童同士の話合いや教師と児童での話合いの工夫。
- (3) ともに学び合うための対話力を育てる指導の工夫。

(記入者 佐藤 かおる・松田 典孝)